

地域交通改善による 高齢者の問題解決への道

問題点 | 生活のための交通が不便 (山口県 宇部市 東岐波地区)

【現状 | 暮らしと交通】

- 宇部市の65歳以上の世帯の70%以上が、独居老人・65歳以上の夫婦だけの家庭であり、何かあったときに危険
- 宇部市住民の50~60%が、様々なボランティア活動、イベントなどの催しに参加していない。
- 高齢者は車を運転できない、狭い道が多い、バスの便も少ない等、生活する為の交通が不便

住宅地の道は全般的に狭く、バスが入れない



バス路線は少なく、便数も少ない



このことから、**地域の高齢者が、積極的に外に出られることが重要だと考えた**

改善案 | 高齢者に優しい地域交通の改善

【考えた3つのアイデア】

- 最初は行政からの補助金によって、コミュニティバスを運行
- 5年後、10年後、補助金無しで運行し、地域内事業者だけでWinWinの関係でなりたつビジネスモデルを提案

【現状と今後の姿】

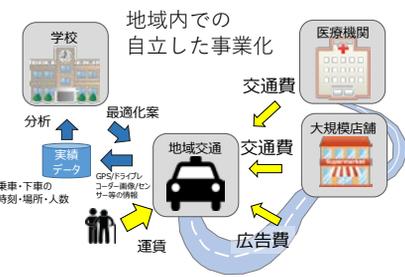
- 現状: コミュニティバスを定時運行でスタート
- 今後の姿: データに基づくビジネスモデルの改善を経て利便性を高めるためのオンデマンドサービスを検討

1. ビジネスの流れを作る (補助削減・廃止)
臨時バスで、医療機関、スーパーに行く便を作る。これで地域内でビジネスがなりたつ流れを作る。
2. 地域の利便性を高める (運行ルート工夫)
帰りは定時運行とし、荷物を持った人が便利なように、乗って頂いた人の各地域、家庭の前まで送る。
3. 継続的な改善 (ルート見直し)
コミュニティバスにドライブレコーダー等を設置
学校機関等で乗降場所、時刻を分析し、最適ルート、最適ダイヤを継続的に作成

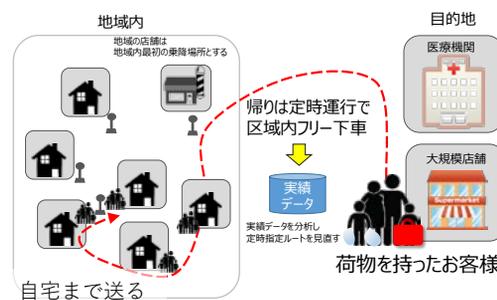
	現状(計画)	今後の姿	備考
ビジネスモデル	宇部市からの補助	補助削減・廃止	
運行ルートの工夫	定時指定ルート	定時指定ルート + 区域内フリー	
ルート見直し	-	データ解析による見直し	
呼び出し	-	オンデマンド	将来実現
移動販売依頼	-	オンデマンドを応用	将来実現



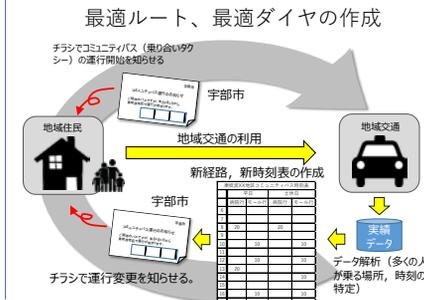
アイデア1 流れを作る



アイデア2 利便性を高める



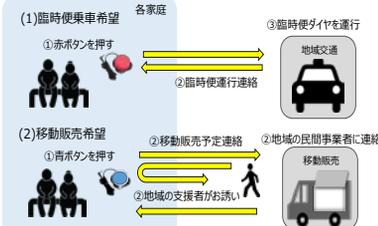
アイデア3 継続的に改善する



【将来の計画】

ネットワークを使ったオンデマンドの仕掛けを作る

- オンデマンドでタクシーを呼べるシステムを開発
- 例えば、赤ボタンを押すと、臨時タクシーを呼ぶ
- 青ボタンを押すと、移動販売希望の連絡 (今後は、到着時刻の表示など双方向も検討)



【まとめ】

人と人のつながりが地域の活性化につながると考えた

- まず高齢者の外出支援のための交通確保が必要
- 次にその価値を高める活動を続ける。
- これによって地域課題が少しずつ改善される。

